

覗いてみよう VR の世界

団体名 ● バーチャルワールド探検隊 / 代表者名 ● 瀧澤海大 (人間科学部こども学科 1 年)

はじめに(背景・目的・目標)

私たちは大学内の授業で VR を使った授業があり、その成長性や将来性を考えた際、小学校などでの先行体験を推進していこうと思い、この団体を設立した。

目的は、教育機関に出向き、まだ現場では、普及していない VR 機器を使って、仮想現実の体験をしてもらうことである。また、3D 映像コンテンツ(自然災害、洪水、地震を体験できるもの)の収集、3D 映像(無料アプリ STYLY による VR 映像)の作成を目標として活動している。

活動内容

小学校の英語の授業(Google ストリートビューの映像を、VR ゴーグルを用いて 360° に表示し、英語で道案内を行う等)のサポートを行った。

今まで計 11 回にわたり、さまざまな地域で活動しており、およそ 850 人の児童たちに VR の体験教室を行ってきた。

結成果、結果の考察

VR を使うことで、VR の基本操作を学ぶことができることはもちろん、学生の作った街に入っの道案内や、国際宇宙ステーションの搭乗など普段では体験できない貴重な体験を行うことができる。それと同時に距離感や奥行きなどの空間把握能力を身につけたり、他者の立場に立つ体験をしたりすることができる。VR は今後教育分野での応用が期待されるのではと思った。

今後の課題、展望

課題としては

- 児童の VR 酔いについて
 - ➡ VR 酔いだと感じたら、すぐに機器を外し休憩をとる。
- 児童によって異なる操作の習得速度
 - ➡ 予め操作方法を小学校に伝達し、予習してもらう。習得が遅い児童には学生が個別に

つける体制。

- 興味・関心を持つ子とそうでない子との満足感の差

➡ 関心を持ってもらえるような導入の検討。

これらが課題であるとわかった。

今後の展望としては、これまでの「VRcity における英語の道案内体験」や「宇宙ステーションの搭乗体験」に追加して、次年度は「世界旅行」の体験や 360 度映像の作成をおこなう。またわかりやすい VR の概念や VR 機器の操作説明を作成する予定である。



図1 宇宙少年団として活動している様子

児童らには「Mission ISS」というアプリを用いて国際宇宙ステーションの機体の中を探索する体験をしてもらった。



図2 金沢市内の小学校で英語の案内に VR ゴーグルを使っている様子

VR ゴーグルを用いることで、その場を歩いている体験ができ、リアリティが増すとともに、VR の画面はモニターで写せるので、周りの児童もアドバイスしやすい。